

自社で生成 AI を活用しているのは 13.8%

用途は「メールや議事録、資料作成等の補助」が 5 割超

(株)滋賀銀行のシンクタンクである、(株)しがぎん経済文化センター（大津市、取締役社長 波田晋一）は、滋賀県内企業を対象に「生成 AI の活用について」の調査を実施しました。その結果がまとまりましたので公表いたします。

【調査概要】

- ・調査名：滋賀県内企業動向調査 特別項目「生成 AI の活用について」
- ・調査時期：2024 年 11 月 5 日～22 日
- ・調査方法：郵送または FAX による配布、回収
- ・調査対象先：滋賀県内に本社を置く企業および県外からの進出企業 874 社
- ・回答数：218 社（有効回答率 25%）うち製造業 88 社、非製造業 130 社

【調査結果の要旨】

近年、生成 AI がニュースなどで取り上げられる機会が増え、ビジネス誌や動画投稿サイトなどでは活用方法や活用事例が多く紹介されています。人手不足が慢性化するなか、生産性向上やビジネスチャンスの創出を期待し、企業の間でも生成 AI を活用しようという動きが広まりつつあり、滋賀県内企業での生成 AI の活用状況について調査しました。

1. 自社で生成 AI を「活用している」は 13.8%

- ・自社で生成 AI を活用しているかたずねたところ、全体では「活用しておらず、予定もない」が 49.5%と約半数を占めた。「活用している」は 13.8%と 1 割強となり、「活用していないが検討中」(25.2%) を合計した [活用している (検討中含む)] は 39.0%。
- ・業種別では大きな差はなかったものの、「活用している」は製造業 (15.9%) が非製造業 (12.3%) を 3.6 ポイントを上回った。
- ・従業員数別では、企業規模が大きいほど、「活用している」と「活用していないが検討中」がともに増加する傾向にある。「301 人以上」では [活用している (検討中含む)] が 84.7%を占めた。

2. 生成 AI 活用の用途、「メールや議事録、資料作成等の補助」が 5 割超

- ・前問で「活用している」または「活用していないが検討中」と回答の方に、生成 AI をどのような用途で活用しているかたずねたところ、「メールや議事録、資料作成等の補助」が 53.8%で最も高く、次いで「データ集計・分析」(46.3%)、「情報収集」(40.0%) となった。

3. 生成 AI の活用、「効果あり」が 8 割

- ・最初の設問で「活用している」と回答の方に、活用の効果が表れているかたずねた。回答母数が少ないため、参考程度の結果となるが、全体では「大いに効果あり」が 14.8%、「やや効果あり」が 66.7%となり、両者を合計した [効果あり] は 81.5%を占めた。

4. 生成 AI 活用での懸念や課題、「AI 運用の人材・ノウハウ不足」が 5 割超

- ・生成 AI を活用するうえでの懸念や課題についてたずねたところ、「AI 運用の人材・ノウハウ不足」が 52.9%で最も高く、次いで「生成 AI を活用すべき業務が不明確」(48.6%)、「システム導入にかかる費用」(37.6%) となった。

本調査結果についてのお問い合わせ先：(株)しがぎん経済文化センター

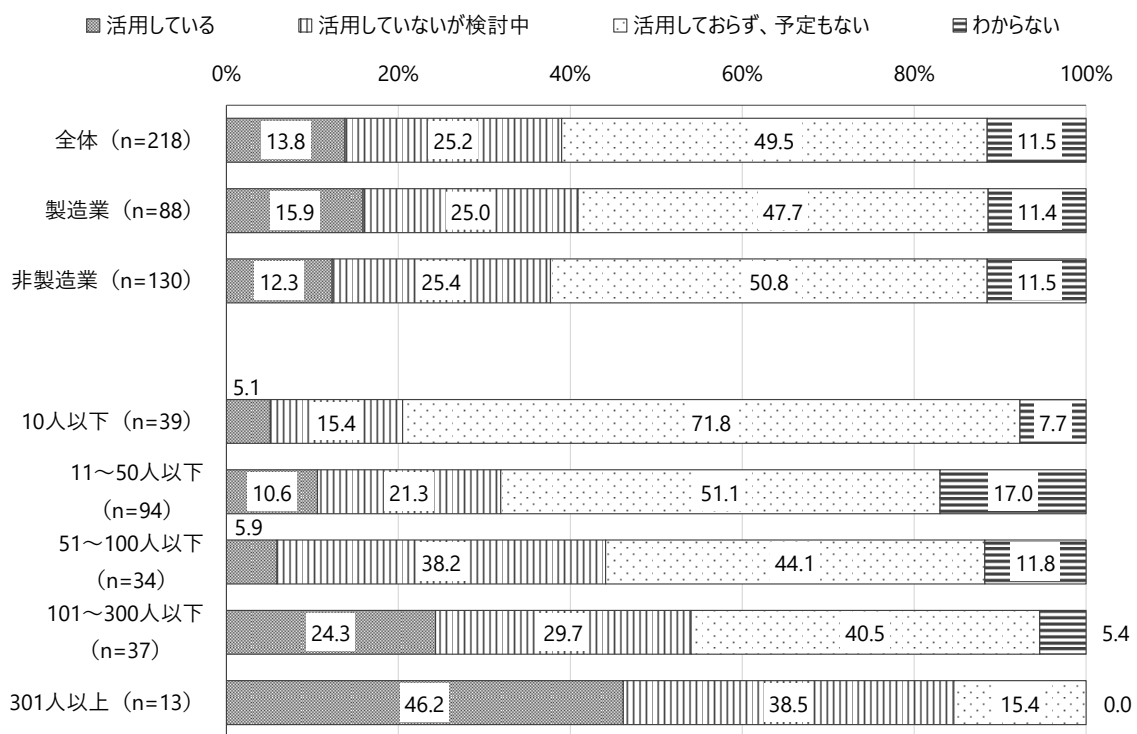
産業・市場調査部 長山 (077-526-0005)

【調査結果の詳細】

1. 自社で生成 AI を「活用している」は 13.8%

- ・自社で生成 AI を活用しているかたずねたところ、全体では「活用しておらず、予定もない」が 49.5%と約半数を占めた。「活用している」は 13.8%と 1 割強となり、「活用していないが検討中」(25.2%)を合計した [活用している (検討中含む)] は 39.0%となった。
- ・業種別では大きな差はなかったものの、「活用している」は製造業 (15.9%) が非製造業 (12.3%) を 3.6 ポイントを上回った。
- ・従業員数別では、企業規模が大きくなるほど、「活用している」と「活用していないが検討中」がともに増加する傾向にある。「活用している」は「10 人以下」では 5.1%にとどまったが、「301 人以上」では 46.2%、「101~300 人以下」では 24.3%となった。[活用している (検討中含む)] は、「301 人以上」では 84.7%を占め、「101~300 人以下」では 54.0%となった。

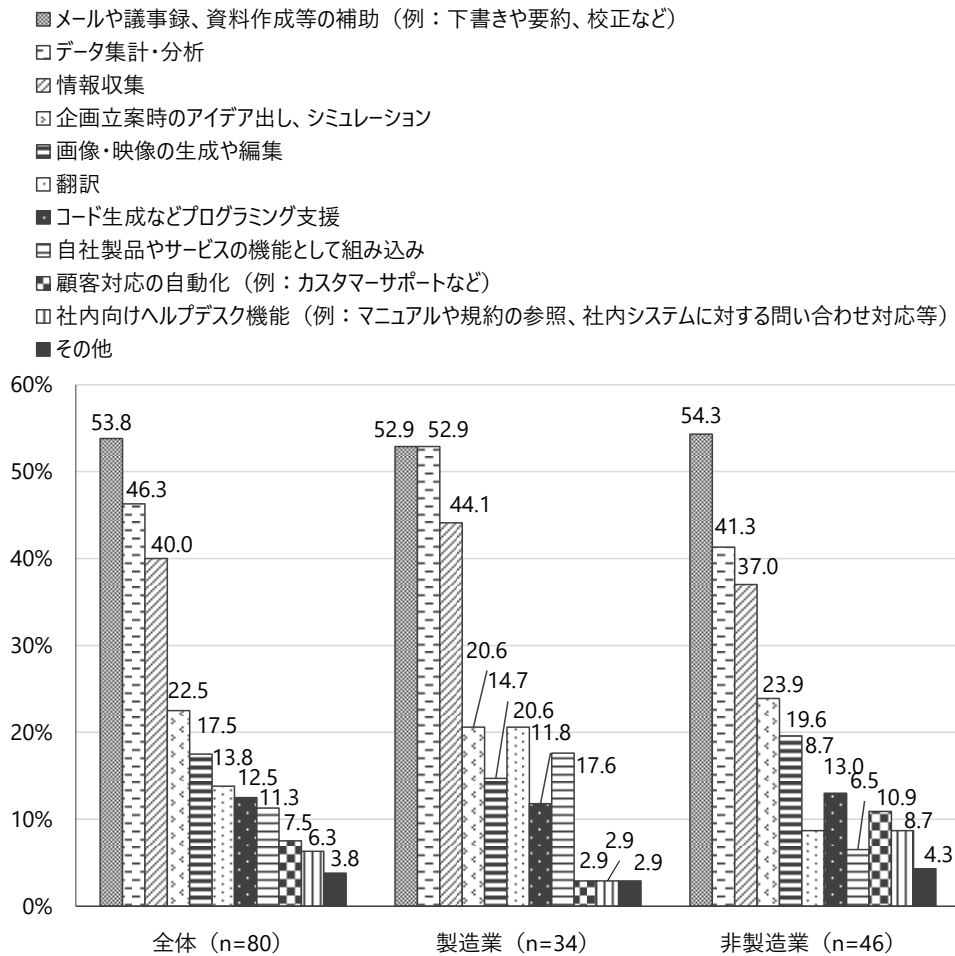
図表 1 生成 AI の活用状況 (業種別、従業員数別)



2. 生成 AI 活用の用途、「メールや議事録、資料作成等の補助」が5割超

- ・前問で「活用している」または「活用していないが検討中」と回答の方に、生成 AI をどのような用途で活用しているかたずねたところ、「メールや議事録、資料作成等の補助」が 53.8%で最も高く、次いで「データ集計・分析」(46.3%)、「情報収集」(40.0%)となった。
- ・業種別では、製造業、非製造業ともに上位3位までは同じ項目となった。製造業が非製造業を大きく上回ったのは、「データ集計・分析」(52.9%、11.6 ポイント差)、「翻訳」(20.6%、11.9 ポイント差)、「自社製品やサービスの機能として組み込み」(17.6%、11.1 ポイント差)となり、逆に非製造業が上回ったのは「顧客対応の自動化」(10.9%、8.0 ポイント差)などとなった。

図表2 生成 AI 活用の用途 (業種別)

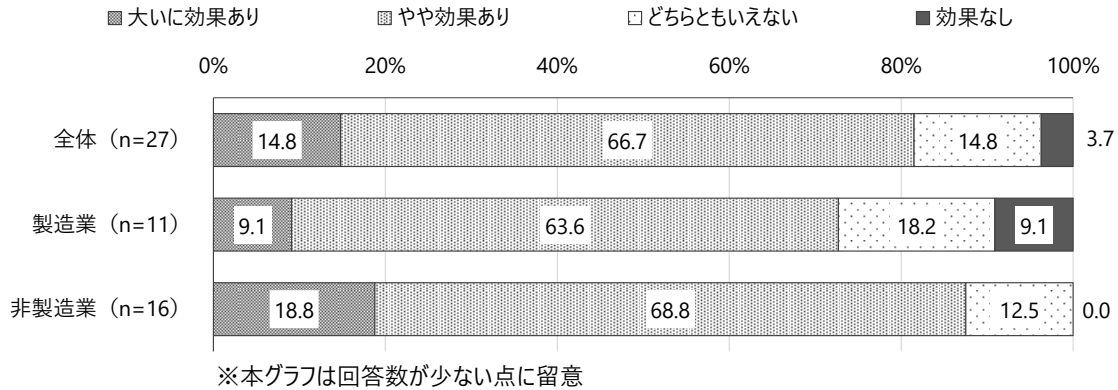


3. 生成 AI の活用、[効果あり] が8割 ※本項目は回答数が少ない点に留意

- ・最初の設問で「活用している」と回答の方に、活用の効果が表れているかたずねた。回答母数が少ないため、参考程度の結果となるが、全体では「大いに効果あり」が 14.8%、「やや効果あり」が 66.7%となり、両者を合計した [効果あり] は 81.5%を占めた。
- ・業種別では、「大いに効果あり」は非製造業 (18.8%) が製造業 (9.1%) を 9.7 ポイント上回った。[効果あり] でも非製造業 (87.6%) が製造業 (72.7%) を 14.9 ポイント上回った。

(グラフは次ページ)

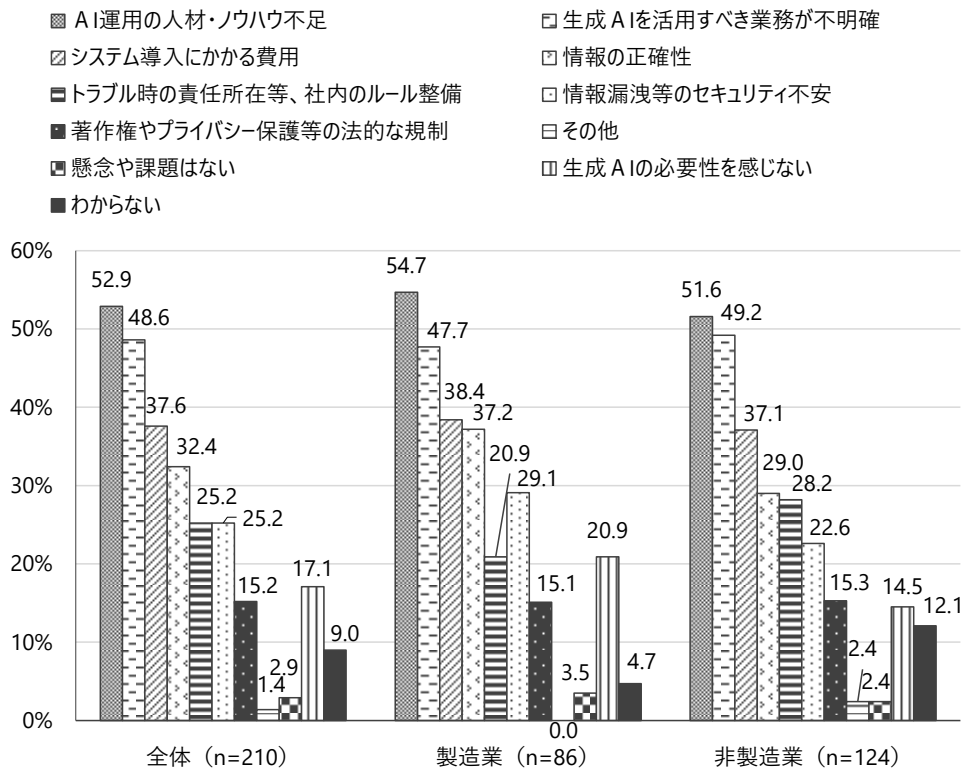
図表3 生成 AI 活用の効果（業種別）



4. 生成 AI 活用での懸念や課題、「AI 運用の人材・ノウハウ不足」が5割超

- ・生成 AI を活用するうえでの懸念や課題についてたずねたところ、「AI 運用の人材・ノウハウ不足」が 52.9%で最も高く、次いで「生成 AI を活用すべき業務が不明確」(48.6%)、「システム導入にかかる費用」(37.6%) となった。
- ・業種別では、上位3位の項目で大きな差はないものの、製造業が非製造業を上回ったのは、「情報の正確性」(37.2%、8.2ポイント差)や「情報漏洩等のセキュリティ不安」(29.1%、6.5ポイント差)などとなり、逆に非製造業が上回ったのは「トラブル時の責任所在等、社内のルール整備」(28.2%、7.3ポイント差)などとなった。

図表4 生成 AI 活用での懸念や課題（業種別）



以上